

# 第13回 少年の主張大会

11月27日、総合文化センターパルナスで少年の主張大会が開催され町内の6小中学校の代表生徒8名が、日常生活の中で感じた心からの思いや考え、感銘を受けたできごとなどを発表しました。

ここではその発表の一部を紹介します。

## 野球を通して学んだこと

中里小学校6年 村上快吏さん

野球を通して学んだことが3つある。1つ目は、親をはじめ、周りの人のありがたさ。2つ目は、練習の大切さ。3つ目は、聖愛高等学校野球部の野球教室で、相手に対して敬意をもってあいさつをする礼儀の大切さを学んだ。

聖愛高校野球部が夏の甲子園へ出場できたのは、野球が強いだけでなく、礼儀正しさも一番だったからだと思う。

僕の夢は、プロ野球の球団スタッフになること。人への礼儀を忘れずに自分からあいさつすることを心がけ、みんなから信頼されるスタッフを目指していきたい。



## 自分への挑戦状

薄市小学校6年 北畠瑞太さん

所属する野球チームが東北大会に出場し、目標の1つを達成することができた。しかし、この目標達成で終わらず、自分への挑戦をし続けることになる。

大きな壁にぶち当たったとき、自分を突き動かす力が、自分自身への挑戦状。そして(絶対やってみせる!)というのが挑戦状に対するいつもの答え。

僕は、自分への挑戦状に挑み続け、野球の楽しさを知った。4月から中学生。野球以外のことにもこの挑戦状という形で自分をよりよくしていく。



## 女子一人でも負けない

中里中学校1年 成田煌さん

入学したら絶対に卓球部に入部すると決め、春から念願の卓球部で活動している。1年生6人中女子は私1人だけだ。

男子の打つ球は速くてついていけないことも日常茶飯事だったが、部活にいくたびに少しづつ慣れることができた。

女子1人だからこそ、苦しいことや悔しいことがたくさんあるが、その分できることが増え、試合で勝てたときの嬉しさは計り知れない。部活動を通して「部活動を続ける大切さ」に気づいた。現状に満足することなく、これからもさらに高い目標に向かって頑張っていく。



## 受け継がれる思い

小泊中学校2年 佐藤夢音さん

小泊はとても魅力的な場所だと思う。小泊は漁業の後継者不足や、高齢化問題に負けず、みんなでなんとかしようとするのが魅力の1つ。もう一つの魅力は、下前権現太刀振りなどの伝統を大切にしているところ。大事な伝統芸能を後世に残すためにも、今の若者が受け継いで、いつまでも小泊の歴史に残るような行事にしたい。

私は、小泊の海や山、そして、そこに生きる人たちが大好きだ。いつか私も、小泊の魅力をもっと多くの人に伝えられるような存在になりたい。



## 鼓笛から学んだこと

武田小学校6年 久保田渚さん

私が自信をもって自慢できる地域の活動は、武田地区で小学校時代を過ごしたお父さんやお母さんも経験している長い伝統をもつ鼓笛。低学年の時バトンで踊っている高学年を見てとてもかっこよく見え、リングバトンを希望した。

鼓笛は地域と一緒にして楽しむことができ、地域の人達を喜ばせる力を実感した。私たちはこれまで先輩方がつないできた鼓笛の伝統のバトンを受け取り、次の学年に引き継ぐ役目がある。あと3年で、武田小学校は閉校だが、それまで鼓笛のメロディーが武田小学校や地域に響き、笑顔がいっぱいいてほしい。



## 未来のためにこれからも

小泊小学校6年 越野太陽さん

年々青森県の人口が減ってきており、お年寄りの割合が増えていることを知り、これ以上、地元離れや人口減少が進まないように、2つの活動に参加した。

1つ目は古くから伝わる「なかどまり音頭」や「こどまり太刀振り」の練習、2つ目は「劇団お結び」に入り、練習にはげんだこと。できることをこれからも続けることで、もっとたくさんの人たちに、中泊町の伝統や、文化財などの魅力を、伝えることができるのではないか。

未来のためにこれからも、僕はがんばり続けます。



## 陸上から学んだこと

小泊中学校1年 須藤光哉さん

地区中体連夏季大会で気づいたことは、努力が必ず結果に結び付くわけではないが、結果を出している人は、人一倍努力を続けているということ。このことに気づいて必死に練習に取り組んだ結果、県大会出場を手にすることことができた。

県大会では、一人ではここまでくることはできなかったこと、いろいろな人の助けがあったからこそ、県大会で走ることができたと実感した。多くの人の支えに感謝しながら、これからも陸上に取り組んで行く。そして、今度は、僕が他の人の支えられるような人になりたい。



## 将来の夢に向かって

中里中学校2年 佐々木芽彩さん

私の夢は、保育園児のときに憧れた先生のような保育士になることだ。保育士の仕事は思った以上に大変で、食事の手伝いや歯磨き、お昼寝の準備、トイレのトレーニングなど、1から教えてあげなければならない。一人ひとりにあった遊びや活動を考えて実践していくので、休む暇もない。

私は、小さい子どもが大好きだ。なりたい自分になれるように今からできることを探し、少しづつ成長していきたい。



保育士になり、また、誰かに憧れられる先生になれるように突き進んでいく。

